

Parisienne 突撃インタビュー

今月のお客さま

ヒロコさん

ヒロコとガイック 二人の出会いと歴史を語る

SNSで大人気の日仏カップル漫画の作者であるヒロコさんが、6月に新著『フランス人は靴下に穴が空いていても優雅に生きる』(KADOKAWA)を出版しました。今回はヒロコさんにフランス人の夫ガイックさんとの出会いからフランスでの育児事情までお聞きしました。



デート3回、のち告白は日本の文化!?

◆本のタイトル通り、夫のガイックさんの靴下には穴がよく空いているんですか?

空いています。向こうは土足で過ごすので誰も見ないから問題ないみたい。穴が空いていることは美しくはないけど、そこが彼の美しさの範囲には入らないのかもしれない。

◆ガイックさんのどんなところが面白い?

ガイックが独特な日本語、フランスの大学で勉強した日本語を喋るんです。例えばワンピースを着ていた時に、「すごく綺麗だね、その衣」って言ったんですよ(笑)。普通は衣って言わないよって言ったら、ガイックと勉強した仲間は全員、衣って言ってたって。シェアしたい!この面白さ!って思いました。1人で面白がるんじゃなくて、みんなに面白がってほしいから漫画にしたんです。

◆ガイックさんとの出会いは?

当時、私はオーストラリアでのワーキングホリデー(以下、ワーホリ)から日本に帰国したばかりでした。英語を話したい目的で、マッチングアプリで相手を探していたところ、ワーホリで来日していたガイックと出会ったんです。初めて会ったのは中野駅前の焼き鳥屋さん。その後カラオケにいきました。私は楽しく酔っ払って、マキシマムザホルモンを歌ったんですが、彼は自分の好きなラルクアンシエルを歌っていたのを覚えています。

◆どちらから付き合いましたか?と言いついたんですか?

ガイックからです。日本の文化で、最初に3回ぐらいデートをして、告白してオッケーをもらえたら、手を繋いだりできるというようなことを勉強してい

たようです。フランスは告白なんて高校生ぐらいがするもので、大人はそういうのはないらしいですが。

◆お二人はその後フランスへ渡りますが、それはなぜ?

ガイックのワーホリが終わってフランスに戻らないといけなかったんで、今度は私がワーキングホリデーでフランスに行こうと。フランスにはPACS*という制度があって、それを使いました。コロナ禍も経て子どもを産んでから、もっと契約上の結びつきを強くしたほうがいいねと話して結婚に切り替えたんです。

帰国して気づいたフランスの良さ

◆パリはどうでした?

初めてのヨーロッパだったので、最初は洋風な街並みとか綺麗だなと思っていたんですが、そこまで持ち上げられるようなものでもないかなと(笑)。日本で見えるフランスのイメージと現実とはかけ離れているなと思いました。

例えば渡仏してすぐの頃、郵便局での手続きの対応がとても悪くて、日本だったらすぐ終わるようなことを何分も待たなきゃいけなかったり。ガイックは「これがフランスだ」みたいな感じでしたけど(笑)。

◆フランスでのワーホリは何をされていたか?

フランス語学校に行きながら、ラーメン屋さんとお寿司屋さんで働いていました。フランス語で数すら数えられない状態でホールに出されたので、すごく困ったんですけど、お客さんが察して分かりやすく話してくれて優しかった。でもシェフはほとんどがネパール人でまかないは毎回ネパールカレー(笑)。



Monsieur, S'il vous plaît ! photo by Saori

ちゃんとフランス語が話せるようになったのは1年以上経ってからでした。

◆フランスでの育児はどうでしたか?

子連れでのお出かけは、日本に比べるとなかなか難しいと思いました。ご飯を食べられる場所やトイレを確認してから出かけるいけないので。行く場所も限られていて、近くの公園で遊んで帰るとか、隣の義実家に行ってお飯を食べて帰るぐらい。電車に乗って遊びに行くことはほとんどなかったですね。

◆フランスに住んでいてよかったなと思うことは?

ワインとチーズとパンがすごく美味しかったことです。他はあんまり…でも帰ってきてからフランスの良さに気づいたんです。日本はサービスや食べ物もよくて大好きですが、ちょっとだけ窮屈さを感じるの、サインやアナウンスが多すぎる。フランスは日本に比べると注意書きが多くないし、別に電車の中で電話しても誰も何も思わない。今回出版した本でもフランスで驚いたことや、感じた文化の違いなどを紹介しているので、皆さんに読んでもらえたら嬉しいです。

*PACS: Pacte Civil de Solidarité (連帯市民協約)。性別に関係なく成年に達した二人に対して安定した持続的協同生活を営むために交わされる契約のこと。フランスでは結婚と同様の権利と義務が与えられることから、この制度が一般に普及している。



毎週土曜日あさ9時30分から、テレビ朝日で放送。tv asahi



食材ひとつに、多彩なドラマ。

毎週土曜日に放送中の「食彩の王国」は、身近な「食材」たちが主役。さまざまな食材が織りなす食文化の歴史や産地の風土…。そこに流れる時間をひも解くことで、人と食材のかかわりを探っていきます。

食彩の王国



語り 兼 師 九 子 子

番組ホームページ www.tv-asahi.co.jp/syokusai

制作 tv asahi テレビマシニオン ViViA) 企画協力 ビデオプロモーション 提供 TOKYO GAS

マダム愛のわたくし ミュラン

第138回

和食とフレンチの良いところ取り？ 繊細なお味を楽しめるレストラン

こ ちら「Restaurant ERH」は、日本酒を取り扱うショップ&バーの奥にある日本人シェフが活躍している隠れ家レストラン。隠し扉の奥に広がる開放感ある空間は、一歩足を踏み入れた瞬間、気分が盛り上がります。内海シェフが作り出す料理は和食の良さとフランス料理の良さ両方をうまく融合したフュージョン料理。日本人にはどこかほっとする、フランス人にはきつと斬新なそんな料理が楽しめるお店。

どの料理も塩加減や火入れが抜群で、繊細なお味。しかもひとつひとつがとても丁寧に作られているのが一目で伝わってくる上品なお皿たちです。アミューズブッシュは、本来、臭みが出そうな青魚を上手に使っているし、前菜はサバのお寿司がなんともエレガントに～！メインのパイ包みはシェフの腕の良さが伝わる一品で火入れ抜群。ふわふわのパンもちょうど手作りだというし、デザートは見た目が美しく気分があがります。シェフの熱意と妥協しない強さが料理をさらに美味しくしているのでしょうか。しかもこれら

のお料理、全て日本酒とのペアリングもあるんですよ。パリでは珍しいです。もちろんワインバーションも選べます。ですからやっぱりフレンチと和食の良いところ取りのお料理のお店！ なんですよね。パリでフレンチはちょっと重い、少し飽きたな。でもせっかくパリにいるのだからフレンチが食べたい！ というわがままさん。ここに最高のお店がありますよー！ と声を大にして勧めてあげたい、そんなレストランなのです。

- A. とても明るい店内と料理人たちが働く姿が見られるカウンター。居心地の良い空間です。
- B. アミューズブッシュが美しすぎて、最初から心をつかまれます。
- C. 赤いのにサバのお寿司!? 口に入れるまでわからないそのお味は試す価値あり。
- D. 腕がないと作れない(と私は思っている)パイ包み焼きは抜群の火入れでした。
- E. お誕生日だと言ったら、こんなプレートを用意してくれました。

今月のハート

料理 ♥♥♥♥♥
ドリンク ♥♥♥♥♥
サービス ♥♥♥♥♥
雰囲気 ♥♥♥♥♥
コスト ♥♥♥♥♥

Restaurant ERH

11 Rue Tiquetonne, 75002 Paris
01 45 08 49 37
<https://www.restaurant-erh.com/>

writer マダム愛

東京で知り合った仏人男性に連れ去られ、気が付けばパリジェンヌとやらに。パリのレストランと生活、2つのブログを書いています。

blog マダム愛の徒然バリエ
<http://www.paris777.blog.fc2.com/>

blog マダム愛のアパートの鍵貸します
<https://www.madameai.com/>



編集部陣丸ツアー おすすめのパリ 2025 パリ セーヌ川下り編

編集長が、今回パリ滞在中どうしても入れたかったイベント、秩父の川下り以来の川下り、セーヌ川下りです。初パリの娘たちに3日間で効率よくその魅力を伝えるためにはこれが一番。エッフェル塔を間近で見られる上に、世界遺産であるセーヌ川岸を座りながら鑑賞できる楽ちん観光なのです。

オルセー美術館にルーヴル美術館、ノートルダム大聖堂も美しく、夜になれば、エッフェル塔が正

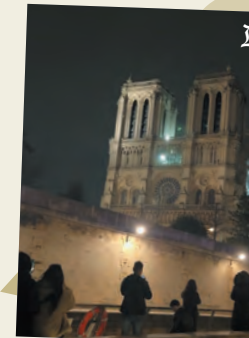
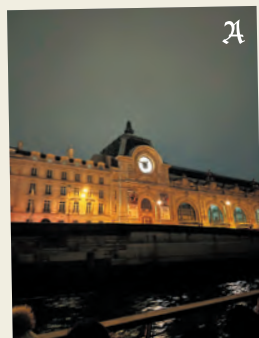
今回でラストとなる2025年版「おすすめのパリ」シリーズ！ パリはいつ行っても新しい発見があり、買いたいものがたくさん出てきてしまうノアゼットプレス編集長の最後のおすすめはセーヌ川クルーズ！

時にキラキラ点滅するのを見せられます。
一番の興奮ポイントはド派手ギラギラ橋として名高いアレクサンドル3世橋をくぐるとき。黄金の橋の後ろでエッフェル塔がスラッと立っている姿は、確かに「鋼鉄の貴婦人」と呼ばれるわけだよね～と納得。食事などのないシンプルなクルーズなら1時間くらいで大体3000円以内と比較的リーズナブル。船頭さんのアクロバティック舵取



りなどは見られませんが、一瞬美しい絵の中に入ってしまったかのような感覚を味わえて、お勧めです。

- A. もともと駅舎だったオルセー美術館
- B. セーヌ川に停泊していた浮かれたパーティダニング船
- C. アレクサンドル3世橋
- D. ノートルダム大聖堂



とびこめ! ミュゼのとびり

今更聞けないフレンチアート

自然と芸術の調和 館内に息づくロダンの美学

パリ7区、ヴァレヌス通り周辺、アンヴァリッド界隈。貴族や官僚のために整備された地区で、庭園付きの館が多く残っています。そのため建物と建物の間にゆとりがあり、緑豊かで、歩道には木漏れ日が降り注ぎ、都会の中心に在ることをしばし忘れてしまいます。

また、観光地や商業地から離れているため静かな印象です。そんな空間の中に佇むのが、ロダン美術館。

ビロン邸と呼ばれるロカイユ様式のこの建物は、1732年に建築家ジャン・オベールによって建てられ、歴代の所有者には、貴族や軍人、ロシア大使館、教会関係者などが名を連ね、1905年以降は芸術家のアトリエとして利用されました。

Musée Rodin
ロダン美術館
パリ

その中には、ロダン、マティス、コクトーなどがいました。特にロダンはこの館が気に入り、晩年はアトリエ兼居住としても使用しました。

1911年、国がこの敷地を購入する際、ロダンは、この邸宅を彼の作品を展示する美術館とすることを条件に、全ての作品をフランス政府に寄贈すると決意。その願いは受け入れられ、この場所を美術館とすることが正式に決まりました。1919年に完成しましたが、ロダンはその2年前に亡くなり完成を見ることはありませんでした。

しかし、生前からすでにこの庭園に自身の彫刻を展示しており、美術館はその展示方法を継承しています。当時、アーティストが生前に自ら美術館の場所を選び、作品を配置したという点で、非常に稀有な美術館です。庭園には、《考える人》をはじめとする彫刻、館内にはロダンの作品のほか、弟子であり愛人でもあったカミーユ・クロー

デルの作品も展示されています。建物もさることながら、このフランス式の庭園

は、パリ中心部の美術館において最大級の規模を誇り、バラをはじめとする多種多様な植物に彩られ、芸術と自然が調和する、一年を通して楽しめる空間となっています。

ちなみに、雪で真っ白に染まった冬の庭園もまた、趣があって素敵でした。

writer 妹尾優子

仏語教師の傍、仏文学朗読ラジオ「Lecture de l'après-midi」の構成とナレーションを担当。美術史 & 日本史ラブ。日仏の文学からアートまで深掘りする日々。

HP <https://note.com/tabichajikan/m/md750819c9bc7>



仏人添乗員リラの 日本リラ散歩



2013年、
パリでのライブの様子



やっぱり、ハマってしまった

1 年前に、友達に誘われて11年ぶりにK-POPのライブイベントに行った話をした。気軽に行ったつもりが、あれから3つの大きな公演に行き、30代で見事に再びハマってしまった。自分が10代、20代前半の頃、K-POPが今ほど世界に広がってなくてフランスでのコンサートはまだ珍しかったし、実際にアーティストと会う機会が少なかったけど、当時推していたグループがワールドツアーに出てパリで公演をやった。その時はキャパ3000人もいかなかった会場で、今年参加してきた数万人のライブと比べればかなりアットホームな雰囲気だった。

今回は日本に住んでいる時代も違うので、イベントやグループの活動などが充実している上に、公式グッズもびっくりするほどたくさんあって、一度ハマると抜け出せない推し活の「沼」の意味が分かってきた。今の時代はSNSも普及していて、インスタでライブ配信をしたり、昔よりアーティストからのコンテンツがものすごく多い気が

して、楽しい時代ではある一方、それはそれで結構疲れてしまう。

でも自分の人生の中で違うタイミングでハマって、昔とは少し異なる感覚で体験できるのは面白い。韓国人グループでも日本語で活躍することも多くて、自分は10代の時できなかった日本語が理解できるようになって翻訳が必要なく楽しめるのはうれしい気持ち。ただ前好きだったグループのメンバーは自分と同年かちょっと上だったけど、今は逆に私が年上になっていて年齢差が気になる。グループにもよると思うけど、日本でライブやイベントに行く年齢高めファンがいたり、親子でファンだったりするのをよく見るのでまだセーフ? 興味があるうちに楽しんで、最終的にいい思い出になればそれでいいかも。

writer リラ

東京で翻訳者としても活躍する30歳のフランス人女子。持続可能な社会の実現に向けての活動もする。趣味は編み物とベランダの植物の世話。

トモクンの アレコレ、パジャマ、ナンゴレ〜

スーパーから突然姿を消す卵 品薄の理由はうやむや

6 月半ば過ぎに面倒なことが起きました。一瞬でしたが、世の中から卵が消えたのです。スーパーの棚はご覧の通りほぼ空っぽ(写真)。どうしたものかと思ったら、時を同じくして、持続可能な農業を支援することを目的とするNGO団体、Générations Futuresが、魚や卵、甲殻類等有機フッ素化合物によって汚染されており、その濃度が高いと訴えました。

フランスは、2026年の元日より有機フッ素化合物(PFAS)を含む特定の製品の製造や輸出入を禁止することを決定しています。汚染物質を極力排除する傾向が強まっているのですが、それはどうやら関係がなかったよう。今年になり、特に放し飼い鶏による卵については需要に対して供給が追い付いていない旨が指摘されていて、そ

ちらの方が品薄となった大きな理由だったようです。

スーパーの張り紙には「放し飼い鶏による卵は当局により制限されている」としか書かれていません。もしかしたら、フランス全土の流通のバランスを調整するために時間を要したのかも。とにかく、卵はあっという間に品薄に。いつも2ユーロ台(約400円)の6個入りパックを買っているのに、この日は仕方なく5ユーロ(800円強)近いものを泣く泣く購入。

どういった経緯で品薄に至り、どんな結果を招いたか、そして今後どうなるのかといった細かな内容が発表されることはなく、それは、米騒動で揺れているどこかの国と大して変わらないのかも知れません。フランスは、とく政府や省庁の権限が強大で、卵の流通を操作することなんて簡単。次の日には、スーパーの棚は卵のパックでいっぱいになりましたが、結果的にはうやむやにされてしまった印象です。日に3個卵を食べる僕にとっては、貴重な蛋白源が消滅するとなると強い危機感を抱きます。とてもやきもちでしたので〜。



writer トモクン

トモクンという名の45歳。在仏27年。ファッションジャーナリスト(業歴17年)は仮の姿で、本当はただの廃品回収業(業歴5年)。詳しくはブログ『友くんのパリ蚤の市散歩』にて。

blog 友くんのパリ蚤の市散歩
<http://tomos.exblog.jp>



第16回

ロンドン・パリ博物館めぐり・シャーロックホームズ・大英博物館&ルーヴル

子ども二人を連れてのパリ旅行はロンドン経由でした。ロンドンでは王道の大英博物館へ。イチオシはパルテノン神殿とロゼッタストーンやミイラ。娘から「どうしてギリシャとエジプトの大切なものがここにあるの」と素朴な疑問。「昔戦争の時にイギリスが持って帰ってきちゃってギリシャの人は返して欲しいらしいよ〜。でも、ミイラをいっぱいここに持ってこられたエジプトの人は「たくさんあるからどうぞ」って感じかな〜」と適当に答えておいて、あとでコソソリ調べてみたら、本当にギリシャは返還を求めている、エジプトはミイラはおろか、ロゼッタストーンですら正式な返還要求はないらしい。やっぱり。エジプトは歴史的文化財大豊作だからな〜。

シャーロックホームズ博物館も行きました。ペイカー街の古い建物で、あまりに小さいのでふと不安になって、入り口で「中にトイレありますか?」と聞いたら「ごめん、無い!」トイレがないと言われると途端に腹が痛くなるタイプなので、その場で踵(きびす)を返し、戸惑う子ども二人をひっぱって近所のカフェへ。トイレ前に3人並んでいて、全然出てこない。20分ほど経過し、もはやしゃがんで踵で肛門を押さえるスタイル。後からやってきたフランス人が「他の階にもあるんじゃない? あなたたちに行けば?」と前の3人に謎の誘導をかましてきて、「じゃああなたが他行ってくださいよ」と断るイギリス人

シャーロックホームズ博物館前ではヘンリー王子似の門番さんと写真撮影できます▶



◀もはや写真だけでは大英博物館と見分けがつかなくなってきた、こちらはルーヴルの箱。

たち。トイレをめぐって英仏戦争開戦寸前です。日本はもはや無力。フランス人が消え、なんとか開戦回避、私も決壊寸前でトイレにイン。外で待っている人のことを思って便座で焦っていると次女が「誰も待ってないから大丈夫だよ」と嘘をついて励ましてくれたことは一生忘れません。肝心の博物館は、シャーロックホームズ小ネタ満載のお部屋でファンには最高の空間。フィクションだなんて信じないぞ。パリではルーヴル美術館へ。普段から美術作品を暢気な歌にする番組「びじゅチューン!」を見ているから、姉妹は結構やる気。

当日は、美術館前で行列すること20分。予めゲットしていたチケットを読み込んでサラッと入館です。中は肩が触れ合うほど観光客でギューギューでしたが、人混みを縫いながらサモトラケのニケ、ナポレオンの戴冠式、民衆を率いる自由の女神、ミロのヴィーナス等有名作品をサクサク鑑賞。これ昔の私と同じ、教養ない人のペース……。わざわざパリまで来て本物を見せた意味とは何なのだろうか。

もう残された望みはモナリザしかない。館内にモナリザの写真と矢印がセットであらゆる場所に掲示してあるので、みんなモナリザに吸い寄せられてモナリザルームはかなりの人だかり。姉妹はアメリカ仕込みの積極性でなんとか最前列まで到着し、「他の作品と違うオーラがある」と珍しく長めに鑑賞。良かった、母さんよりは感受性が豊かで。最後に長女が「エジプトの書記官が見たい。『びじゅチューン!』で、書記官のアイラインがギャルみたいで素敵という歌がある」何を言っているのかよくわからないまま探してみただけで全然ない。監視員さんに聞いたら「これ今クローズ。」1時間ずっとミイラの間を彷徨っていただけであった。この数日ミイラと過ごさず〜。

writer 吉野亜衣子

ラジオ局を辞め、夫の留学についてパリへ。帰国後、日仏文化交流のための NOISSETTE を設立。2022 年で設立 10 周年。2024 年春より NY 在住。

HP <https://note.com/noisettepress>

podcast <https://podcasters.spotify.com/pod/show/cafenoisette>

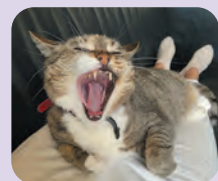
パリに暮らす猫パリにゃん・リリちゃんと
ゴキゲン指揮者キョリのほのぼの生活



パリにゃん通信

フランス式時間管理術

オンとオフの切り替え。ヨーロッパで25年暮らしている私が一番学んだこと。今やフランス人のように、バカンスを取るの当たり前で人生に不可欠と断言できる。学生時代、世界中から若い音楽家が集まる国際音楽アカデミーに参加した時、私は休み時間さえ惜しくて先生に助言を求めに行くと「休み時間は遊べ!」と一喝された。周りを見るとフランス人達はみんな見事にリラックスしていた。そして私は学んだのです。人生を謳歌するためには仕事と休みのバランスが重要だってことを! 今は仕事が終われば全てを忘れ、大好きな料理や読書に没頭し、リリちゃんとシエスタをして戯智を養い、そしてまた全細胞を使って嬉々として仕事をするのであります!



フランス夏の定番料理のタブレ! *タブレは夏野菜にクスクスを混ぜて冷やして食べる夏のお料理

writer 押田杏里

日仏混合アマチュア合唱団「バリア・ブリコ合唱団」を主宰する指揮者。パリで猫のリリちゃんと旦那様と「今を生きる」をモットーに暮らしています。

Instagram @abricotp



スマホも大画面テレビもアプリをダウンロードするだけ
フランスで日本のテレビ

地上 BS 50ch
1週間無料体験

アプリをダウンロードして簡単登録で即時視聴

- 地上・BS・CS50局ライブTV
- 過去4週間番組の見直し視聴
- 週間ランキングVOD500本
- 過去4週間番組の予約録画可
- スマホからテレビ画面に転送可
- TV端末契約でスマホ視聴無料

年間契約 TVDongle 無料

モバイル USD 199.9/年 テレビ+モバイル USD 239.9/年 月当たり USD 16.6

サポートメール [日本入会付] admin@kaitekitv.com サポートページ <https://kaitekitv-support.com>

編集後記

日本は暑くなってきた様子ですが、ここホーチミンは常夏!でも、「サイゴンの風」なるそよ風がいつも吹いているのと大きな街路樹の木陰が多いから、わりと涼しい!? 私は最近未知のフルーツに挑戦中です。(編集Y)

編集後記

6月の家仕事といえば、梅と赤紫蘇のシロップ作り。赤紫蘇ジュースに梅シロップをちょこっと足すと最高なんです。年々夏の暑さが激しくなっていますが、毎日1杯飲めば夏バテ知らず。7月が待ち遠しい! (AD.F)